分野名	基礎看護学	科目名	基礎看護学概論
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	前期
担当教員	専任講師＊　　＊実務経験のある教員		
目的	保健医療福祉サービスにおける看護の役割・機能を理解し、専門職業人として必要となる基礎的知識を身につける。		
目標	1.（看護の概念を理解し、看護の本質と機能について述べる。 2.（生活者である人間と家族・集団・地域を含めた看護の対象について述べる。 3.（多様な健康状態と要因・健康指標を理解し、国民の健康維持増進に必要な看護活動と他職種との協働について述べる。 4.（看護職の資格と養成制度について述べる。 5.　医療・看護に関連する制度や看護提供のしくみについて述べる。 6.（医療・看護に関わる倫理的な視点について理解する。		
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合（%）を示す ①レポート提出：ナイチンゲール「看護覚え書き」の抄読とレポート作成　20% ②筆記試験：80%		
使用テキスト・教材	1)茂野香おる他著：系統看護学講座専門分野　基礎看護学[1]看護学概論、医学書院、2024. 2)フロレンス・ナイティンゲール著：看護覚え書き一本当の看護とそうでない看護、小玉香津子・尾田葉子翻訳、日本看護協会出版会、2024.		
履修にあたっての留意点	・教科書の該当ページを読み、各単元の理解を深めましょう。 ・事例の理解を深めることにより、看護の概念と実践を結びつけましょう。 ・課題学習により、この科目の重要事項について主体的に学びを深めましょう。 ・当科目のレポートは個人で作成するものです。レポート提出にあたり、他者との共同作業や他者のレポートを模倣したもの、AIにより作成したものは採点対象としません。		

No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	看護の本質 1）看護の原点　2）看護の歴史的変遷	講義	専任講師＊
2.	看護の定義と看護実践の質保証　　1）看護の定義　2）ケアとは 3）看護実践の質保証　4）看護者に求められる役割機能	講義	専任講師＊
3.	看護の対象の理解 1）人間のこころとからだ	講義	専任講師＊
4.	健康のとらえ方 1）健康の理解　2）障害の理解　3）ヘルスプロモーション	講義	専任講師＊
5.	看護の対象の理解 2）人間の生涯発達　3）生活者としての人間の理解	講義	専任講師＊
6.	国民のライフサイクルと健康・生活、現代日本の社会背景	講義	専任講師＊
7.	看護の理論と実践 1）看護理論の変遷　2）著名な看護理論家	講義	専任講師＊
8.	看護の理論と実践 フロレンス・ナイチンゲール「看護覚え書き」の学習	課題レポート作成	専任講師＊
9.	看護の提供者 1）職業としての看護の歴史的発展	講義	専任講師＊
10.	看護の提供者 2）看護職の資格と養成制度　3）就業状況と継続教育	講義	専任講師＊
11.	看護提供のしくみ 1）サービスとしての看護　2）看護サービス提供の場	講義	専任講師＊
12.	看護提供のしくみ 3）看護をめぐる制度と政策　4）診療報酬制度	講義	専任講師＊
13.	看護提供のしくみ 5）看護サービスのマネジメント　6）医療安全	講義	専任講師＊
14.	看護における倫理　1）現代社会と倫理　2）医療をめぐる倫理の歴史的経緯 3）看護実践における倫理問題への取り組み	講義	専任講師＊
15.	単位修得試験	筆記試験	専任講師＊
16.			

分野名	基礎看護学	科目名	看護の基本技術Ⅰ
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	前期
担当教員	専任講師＊　　＊実務経験のある教員		
目的	人間関係の成立と対象の安全・安楽を、守る技術が実施できる基本的知識・技術・態度を身につける。		
目標	1．看護技術の特徴を述べる。 2．看護における安全・安楽、安心をもたらす援助の意義を説明する。 3．安全・安楽を阻害する因子を説明する。 4．安全安楽に対して責任ある態度を表現する。 5．人間関係を成立させるための技術の概要を説明する。 6．人間関係を成立させるための技術を実施する。 7．対象の安全を守るための感染予防の技術の概要を説明する。 8．対象の安全を守るための感染予防の技術を実施する。 9．看護者として必要な態度を表現する。10．看護に対する興味・関心を表現する。		
成績評価の 方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合（%）を示す 単位認定試験85%　　レポート・課題提出　15%		
使用テキスト・教材	教科書：基礎看護技術Ⅰ基礎看護学②、基礎看護技術Ⅱ基礎看護③、		
履修にあたっての 留意点	・指示された時のみスマートフォンの使用を許可する。 ・事前学習、事前準備をしっかり整えて望むこと。 ・課題の指定された期日は厳守すること。 ・授業内容を振り返り、授業ポイント、学びはまとめること。		

No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	″技術の概念 看護技術の意義、特徴″	講義	専任講師＊
2.	技術演習オリエンテーション	講義	専任講師＊
3.	安全・安楽の意義、安全・安楽を阻害する因子	講義	専任講師＊
4.	安全を守る技術・安楽を高める技術	講義	専任講師＊
5.	″コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素と成立過程″	講義	専任講師＊
6.	″関係構築のためのコミュニケーション　接近的行動と非接近的行動	講義・GW	専任講師＊
7.	効果的なコミュニケーション 傾聴の技術、情報収集の技術、説明の技術	講義	専任講師＊
8.	事例を用いたコミュニケーションの実際	ロールプレイ GW	専任講師＊
9.	事例を用いたコミュニケーションの実際	ロールプレイ GW	専任講師＊
10.	コミュニケーション障害への対応	講義	専任講師＊
11.	″感染防止の基礎知識 感染性廃棄物の取り扱い″	講義	専任講師＊
12.	″標準感染予防策 感染経路別予防策″	講義	専任講師＊
13.	″洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 無菌操作″	講義	専任講師＊
14.	″標準予防策の実際(衛生的手洗い・防護用具の装着） 無菌操作の実際	演習	専任講師＊
15.	単位認定試験		
16.			

分野名	基礎看護学	科目名	看護の基本技術Ⅱ
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	前期
担当教員	専任講師＊		＊実務経験のある教員
目的	人間の動きのメカニズムを理解し、安全で安楽な環境を整えるために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。		
目標	1.ボディメカニクスの意義を説明する。 2.看護場面の姿勢と動作を説明する。 3.対象の安楽な体位を実施する。 4.対象の体位変換・移動・移送を実施する。 5.対象の環境に対する欲求を充足できる技術の概要を説明する。 6.就床患者のリネン交換を実施する。 7.看護師として必要な態度を表現する。 8.看護に対する興味・関心を表現する。		
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合（%）を示す 単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	教科書：基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③、 トートラ人体解剖生理学、看護の基本となるもの、ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト（適宜指定する）		
履修にあたっての留意点	指示された時のみ、スマートフォンの使用を許可する。事前学習、事前準備を整え臨むこと。 課題の指定された提出期日は厳守すること。		

No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	良い姿勢とは・ボディメカニクスの意義	講義	専任講師＊
2.	ボディメカニクスの基礎、体位	講義	専任講師＊
3.	移動の援助1〈歩行・移乗・移送〉	シミュレーション	専任講師＊
4.	移動の援助2〈体位変換〉	シミュレーション	専任講師＊
5.	安楽な体位の援助〈体位保持・ポジショニング〉	講義	専任講師＊
6.	安楽な体位の援助・まとめ〈体位変換・歩行・移乗・移送〉	シミュレーション	専任講師＊
7.	演習「移動動作」	演習	専任講師＊
8.	演習「移動動作」	演習	専任講師＊
9.	生活環境の意義	講義	専任講師＊
10.	援助の実際 :「クローズドベッド」	演習	専任講師＊
11.	演習 「クローズドベッド」	演習	専任講師＊
12.	援助の実際:「臥床患者のリネン交換・環境整備」	演習	専任講師＊
13.	援助の実際：就床患者のリネン交換・環境整備」	演習	専任講師＊
14.	病床環境とは　　まとめ	講義・グループワーク	専任講師＊
15.	単位修得試験		専任講師＊
16.			

分野名	基礎看護学	科目名	対象把握の技術
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	通年
担当教員	専任講師＊　　＊実務経験のある教員		
目的	対象の健康状態を適切に把握するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。		
目標	1．ヘルスアセスメントの重要性を説明する。 2．健康歴聴取の目的とセルフケア能力のアセスメントの必要性を述べる。 3．バイタルサインの測定を実施できる。 4．フィジカルアセスメント技術を実施する。 5．心理・社会状態のアセスメントの必要性を述べる。 6．看護記録や報告の目的、記載時の留意事項を述べる。 7．症状・生体機能管理技術を種類別に述べる。 8．診察・検査・処置の介助の概要を述べる。 9．看護師として必要な態度を表現する。 10．看護に対する興味・関心を表現する。		
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合（%）を示す 単位認定試験100%(対象把握の技術70%　症状・身体機能管理技術/診察・検査・処置における技術30%)		
使用テキスト・教材	系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学2　　医学書院 系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学3　　医学書院		
履修にあたっての留意点	・指示された時のみスマートフォンの使用を許可する。 ・事前学習、事前準備をしっかり整えて望むこと。 ・課題の指定された期日は厳守すること。 ・グループワークでは他者の意見を尊重し積極的に参加すること。 ・授業内容を振り返り、授業ポイント、学びはまとめること。		

No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	ヘルスアセスメントとはなにか 健康歴とセルフケア能力のアセスメント	講義	専任講師＊
2.	バイタルサインの測定とアセスメント　脈拍・体温・呼吸	講義	専任講師＊
3.	バイタルサインの測定とアセスメント　血圧	講義	専任講師＊
4.	血圧測定	講義	専任講師＊
5.	意識・計測・看護記録と報告	講義	専任講師＊
6.	フィジカルアセスメント　呼吸器系・循環器系・腹部	講義	専任講師＊
7.	フィジカルアセスメント　乳房・腋窩・神経・頭頂部・感覚器 心理・社会的側面のアセスメント	講義	専任講師＊
8.	バイタルサイン測定 フィジカルアセスメント	デモンストレーション	専任講師＊
9.	バイタルサイン測定演習・フィジカルアセスメント演習	演習	専任講師＊
10.	バイタルサイン測定演習・フィジカルアセスメント演習	演習	専任講師＊
11.	症状・生体機能管理技術の基礎知識 生体情報のモニタリング	講義	専任講師＊
12.	診察・検査・処置の介助技術	講義	専任講師＊
13.	検体検査	講義	専任講師＊
14.	穿刺	講義	専任講師＊
15.	単位認定試験		
16.			

分野名	基礎看護学	科目名	生活を整える技術Ⅰ
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	通年
担当教員	専任講師＊		＊実務経験のある教員
目的	対象が動く・眠る・清潔を保つことの基本的欲求を理解し、日常的援助の基本的知識・技術・態度を身につける。		
目標	1．活動・休息の意義を説明する。 2．清潔と衣生活の意義を説明できる。 3．清潔援助の基本技術が習得できる。 4．看護師として必要な態度を表現する。		
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合（%）を示す 単位認定試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ 基礎看護技術第8版		
履修にあたっての留意点	デモストレーションの時は、スマートフォン（タブレット可）を使用します。		

No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	活動・休息 1．活動	講義	専任講師＊
2.	2．休息 1）休息と睡眠	講義	専任講師＊
3.	3．清潔・衣生活 1）清潔援助の基礎知識	講義	専任講師＊
4.	3）病床での衣生活の援助	講義	専任講師＊
5.	4．入浴ができない場合の援助 1）部分浴	講義	専任講師＊
6.	ケリーパットを用いた洗髪の援助技術	講義・デモストレーション	専任講師＊
7.	ケリーパットを用いた洗髪の援助技術	校内演習	専任講師＊
8.	ケリーパットを用いた洗髪の援助技術	校内演習	専任講師＊
9.	全身清拭・寝衣交換の援助技術	講義・デモストレーション	専任講師＊
10.	全身清拭・寝衣交換の援助技術	校内演習	専任講師＊
11.	全身清拭・寝衣交換の援助技術	校内演習	専任講師＊
12.	手浴・足浴・陰部洗浄の援助技術	講義・デモストレーション	専任講師＊
13.	足浴・陰部洗浄の援助技術	校内演習	専任講師＊
14.	足浴・陰部洗浄の援助技術	校内演習	専任講師＊
15.	終講時筆記試験		専任講師＊
16.			

分野名	基礎看護学	科目名	生活を整える技術Ⅱ
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	通年
担当教員	専任講師＊		＊実務経験のある教員
目的	対象が食べる・排泄することの基本的欲求を理解し、日常生活援助の基本的知識・技術・態度を身につける。		
目標	1.対象の食事に対する欲求を充足できる技術の概要を説明する。 2.対象に適した食事の援助を実施する。 3.対象の排泄に対する欲求を充足できる技術の概要を説明する。 4.対象に適した床上排泄の援助を実施する。 5.対象に原則に基づいた導尿・浣腸を実施する。 6.看護師として必要な態度を表現する。 7.看護に対する興味・関心を表現する。		
成績評価の 方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合（%）を示す 単位修得試験80%　レポート提出20%		
使用テキスト・教材	教科書：基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③、基礎看護技術Ⅱ基礎看護学②、　トートラ人体解剖生理学、看護の基本となるもの、看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践		
履修にあたっての 留意点	指示された時のみ、スマートフォンの使用を許可する。事前学習、事前準備を整え臨むこと。 課題の指定された提出期日は厳守すること。		

No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	1.食事と栄養 A.食事援助の基礎知識	講義	専任講師＊
2.	B.食事摂取の援助	講義	専任講師＊
3.	C.摂食・嚥下訓練 D.非経口栄養摂取の基礎知識	講義	専任講師＊
4.	援助の実際 「食事援助」とまとめ	演習・講義	専任講師＊
5.	2.排泄 A.自然排尿および自然排便の介助	講義	専任講師＊
6.	A.1)自然排尿および自然排便の基礎知識	講義	専任講師＊
7.	A.2)自然排尿および自然排便の介助の実際・床上排泄への援助	講義シミュレー	専任講師＊
8.	B.導尿 目的・種類・方法	講義	専任講師＊
9.	B.援助の実際 「一時的導尿：女性の場合」	ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ	専任講師＊
10.	B.援助の実際 「一時的導尿：女性の場合」	演習	専任講師＊
11.	C.排便を促す援助 浣腸、摘便の基礎知識	演習	専任講師＊
12.	C.　便器挿入の技術	ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ	専任講師＊
13.	C.援助の実際　「グリセリン浣腸」	演習	専任講師＊
14.	C.援助の実際　「グリセリン浣腸」	演習	専任講師＊
15.	単位修得試験	試験	専任講師＊
16.			

分野名	基礎看護学	科目名	与薬に伴う技術
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	後期
担当教員	専任講師＊　　＊実務経験のある教員		
目的	対象へ安全で正確な与薬を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。		
目標	1.与薬の目的と種類を説明する。 2.薬物の取り扱い上の法的責任と正しい管理を説明する。 3.安全で正確な与薬を行うための原則と留意点を説明する。 4.各与薬法における安全で正確な方法を説明する。 5.エビデンスに基づいた注射実施時の援助を説明する。 6.輸血時の安全な方法を説明する。 7.モデルに筋肉内・皮下・静脈内注射を安全に正確に実施する。 8.看護師として必要な態度を表現する。 9.看護に対する興味・関心を表現する。		
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合（%）を示す 単位修得試験80%課題20%		
使用テキスト・教材	系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学3　　医学書院 基礎看護技術　第8版　医学書院 トートラ人体解剖生理学　原書11版　丸善株式会社		
履修にあたっての留意点	指示された時のみ、スマートフォンの使用を許可する。事前学習、事前準備を整え臨むこと。 課題の指定された提出期日は厳守すること		

No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	与薬の基礎知識	講義	専任講師＊
2.	与薬に関する看護師の役割	講義	専任講師＊
3.	薬の相互作用、経口・口腔内与薬	講義	専任講師＊
4.	注射の基礎知識、輸血の基礎知識	講義	専任講師＊
5.	与薬の実際	ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ	専任講師＊
6.	与薬の実際	演習	専任講師＊
7.	注射の準備	講義	専任講師＊
8.	注射の準備	演習	専任講師＊
9.	注射の実際（筋肉・皮下・皮内）	ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ	専任講師＊
10.	注射の実際（筋肉・皮下）	演習	専任講師＊
11.	注射の実際（筋肉・皮下）	演習	専任講師＊
12.	注射の実際（静脈内注射）・輸液速度	ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ	専任講師＊
13.	注射の実際（静脈内注射）・輸液速度	演習	専任講師＊
14.	注射の実際（静脈内注射）・輸液速度	演習	専任講師＊
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	基礎看護学	科目名	臨床看護学総論
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	後期
担当教員	専任講師*		*実務経験のある教員
目的	健康障害をもつ対象の健康状態と症状に応じた看護を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。		
目標	1.健康状態に応じた看護の特徴を述べる。 2.主要な症状を示す対象者への看護の概要を述べる。 3.酸素投与・吸引の目的・原理・原則を説明する。 4.酸素投与・口腔内吸引の目的・原理・原則を説明する。 5.安全で効果的に罨法を貼用する方法を説明する。 6.安全で効果的に罨法を実施する。 7.看護師として必要な態度を表現する 8.看護に対する興味・関心を表現する。		
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合（%）を示す 単位認定試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ 系統看護学講座　臨床看護総論 基礎看護技術第8版		
履修にあたっての留意点	看護過程の講義資料を使用します。 成人看護学のテキストも参考にします。		

No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	健康状態の経過と看護 1．人とライフサイクル	講義	専任講師*
2.	4）子供の理解と看護 5）成人の理解と看護	講義	専任講師*
3.	主要症状・治療別看護 1．症状の捉え方	講義	専任講師*
4.	3．浮腫（脱水） 4．倦怠感	講義	専任講師*
5.	5．発熱	講義	専任講師*
6.	健康状態の経過と看護 2．健康状態の経過の看護過程	講義グループワー	専任講師*
7.	事例展開	講義グループワー	専任講師*
8.	2）急性期　事例展開	講義グループワー	専任講師*
9.	事例展開	講義グループワー	専任講師*
10.	3）回復期	講義グループワー	専任講師*
11.	4）終末期　事例展開	講義グループワー	専任講師*
12.	5）医療機器	講義グループワー	専任講師*
13.	氷枕、湯たんぽ演習	校内演習	専任講師*
14.	酸素ボンベ、口腔内吸引演習	校内演習	専任講師*
15.	終講時筆記試験		専任講師*
16.			

分野名	基礎看護学	科目名	看護過程
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	通年
担当教員	専任講師＊　　＊実務経験のある教員		
目的	看護の対象の健康上の問題を解決するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。		
目標	1．対象の健康上の問題の解決と看護過程の関係を説明する。 2．クリティカルシンキングの必要性を述べる。 3．看護過程の各構成要素の定義を述べる。 4．事例に応じた看護過程を展開する。		
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合（%）を示す 中間レポート提出１５%　　最終レポート提出３５%　　単位認定試験５０%		
使用テキスト・教材	″基礎看護技術Ｉ基礎看護学②、看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践、 ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト、看護の基本になるもの″		
履修にあたっての留意点	″指示されたときのみ、スマートフォンの使用を許可する。事前学習、事前準備を整え臨むこと。 課題は指定された提出期日を厳守すること。″		

No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	看護過程の定義、看護過程展開の基盤となる考え方	講義	専任講師＊
2.	情報収集のためのヘンダーソンの3つの視点、14項目の枠組み″	講義	専任講師＊
3.	事例紹介、情報収集、情報の整理・分類	講義・GW	専任講師＊
4.	14項目アセスメントシート活用方法の説明、情報の分析・解釈	講義・GW	専任講師＊
5.	アセスメントの実際	講義・GW	専任講師＊
6.	アセスメントの実際	講義・GW	専任講師＊
7.	アセスメントの実際	講義・GW	専任講師＊
8.	アセスメントの実際	講義・GW	専任講師＊
9.	関連図（全体像）について	講義・GW	専任講師＊
10.	関連図（全体像）について	講義・GW	専任講師＊
11.	問題の明確化、優先順位のつけ方、問題リストの活用	講義・GW	専任講師＊
12.	看護計画立案、期待される結果、具体策	講義・GW	専任講師＊
13.	看護計画立案、期待される結果、具体策	講義・GW	専任講師＊
14.	結果・評価	講義・GW	専任講師＊
15.	単位修得試験		専任講師＊
16.			

分野名	基礎看護学	科目名	基礎看護技術統合演習
単位数	2	授業時間数	45
開講年次	1	開講期間	通年
担当教員	専任講師*		*実務経験のある教員
目的	対象の状態に応じた看護を実践するために、複数の看護技術を統合する基礎的知識・技術・態度を身につける		
目標	1.看護の対象となる人と生活の場がわかる 2.看護の対象となる人の反応を感じ、省察する 3.対象把握の技術を活用して、対象の状態がわかる 4.看護の基本技術・生活を整える技術を活用して、事例に応じた援助を実施する 5.紙上事例に応じた看護計画を立案し、援助を実施する 6.実施した援助を評価する 7.看護師として必要な態度を表現する 8.看護に対する興味・関心を表現する		
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合（%）を示す レポート60%、技術試験40%		
使用テキスト・教材	教科書：基礎看護技術Ⅰ基礎看護学②、基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③、看護の基本となるもの、看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践、ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト		
履修にあたっての留意点	指示された時のみ、スマートフォンの使用を許可する 事前学習、事前準備を整え臨むこと 課題の指定された提出期限は厳守すること		

No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	統合演習の進め方 自分の生活と他者の生活の違い	グループワーク	専任講師*
2.	地域の中での生活① 地域の特徴、年代や家族での健康維持について	グループワーク	専任講師*
3.	地域の中での生活② 地域の保健医療システム、保健医療上の課題	グループワーク	専任講師*
4.	地域の中での生活③ 生活の視点で地域の現、他地域との比較	グループワーク	専任講師*
5.	技術演習確認について オリエンテーション	講義	専任講師*
6.	基礎看護学実習Ⅰ(後半実習)前の看護技術確認	講義・演習	専任講師*
7.	基礎看護学実習Ⅰ(後半実習)前の看護技術確認	講義・演習	専任講師*
8.	基礎看護学実習Ⅰ(後半実習)前の看護技術確認、振り返り	講義・演習	専任講師*
9.	基礎看護学実習Ⅰ(後半実習)前の看護技術確認	講義・演習	専任講師*
10.	基礎看護学実習Ⅰ(後半実習)前の看護技術確認	講義・演習	専任講師*
11.	基礎看護学実習Ⅰ(後半実習)のリフレクション	グループワーク	専任講師*
12.	看護過程とリンクした授業① 事例患者の個別性を考えた援助の実施	講義グループワー	専任講師*
13.	看護過程とリンクした授業② 事例患者の個別性を考えた援助の実施	グループワーク	専任講師*
14.	看護過程とリンクした授業③ 立案した看護計画の実施、経過記録の記述	グループワーク	専任講師*
15.	看護過程とリンクした授業③ 立案した看護計画の実施、経過記録の記述	グループワーク	専任講師*
16.	看護過程とリンクした授業④ 看護計画の追加・修正	グループワーク	専任講師*
17.	看護過程とリンクした授業⑤ 看護計画に沿った援助の実施	グループワーク	専任講師*
18.	看護過程とリンクした授業⑤ 看護計画に沿った援助の実施	グループワーク	専任講師*

No	学習内容	学習方法	担当教員
19.	看護過程とリンクした授業⑥ 看護計画の評価	講義	専任講師*
20.	静脈内採血について	講義	専任講師*
21.	モデル人形への静脈内採血	演習	専任講師*
22.	モデル人形への静脈内採血	演習	専任講師*
23.	統合演習のまとめ	講義	専任講師*